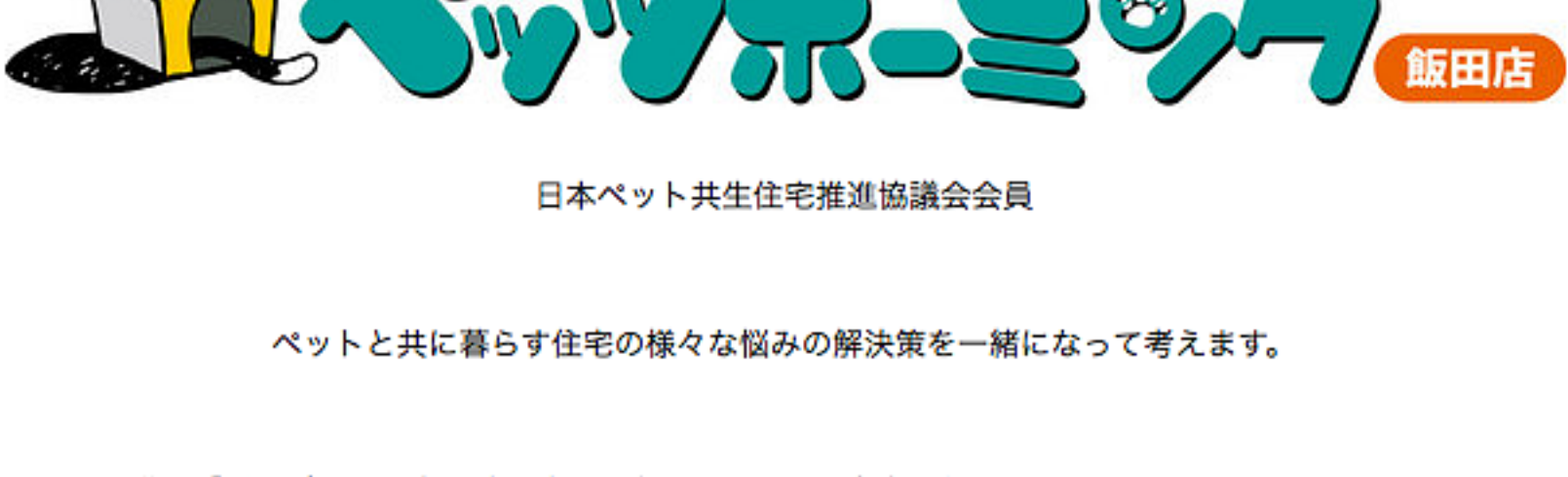


ペットと暮らす家づくり (新築・リフォーム)



日本ペット共生住宅推進協議会会員

ペットと共に暮らす住宅の様々な悩みの解決策と一緒に考えてみます。

- イス、猫の「爪キズ」から床、壁、建具を守りたい。 □自由に行ききできるドアにしたい。
□糞尿の臭いっかない内装にしたい。 □鳴き声や「吠え声」が外に漏れないようにしたい。
□尿などが沁みこまない床にしたい。 □イス用の収納スペースが欲しい。
□滑ってケガをしないような床にしたい。 □室内の収納を工夫してキズ、汚れから守りたい。
□安全に昇降できる階段にしたい。
等々

ペットに優しい住まいを追求して行くこと、子供や高齢者にも優しい住宅につながるケースが多い様です。

ペット共生リフォームの例

■個別別メンテナンス ペット共生リフォームノハウ- 具体的な個別に、メンテナンスとリフォーム例をご紹介します。

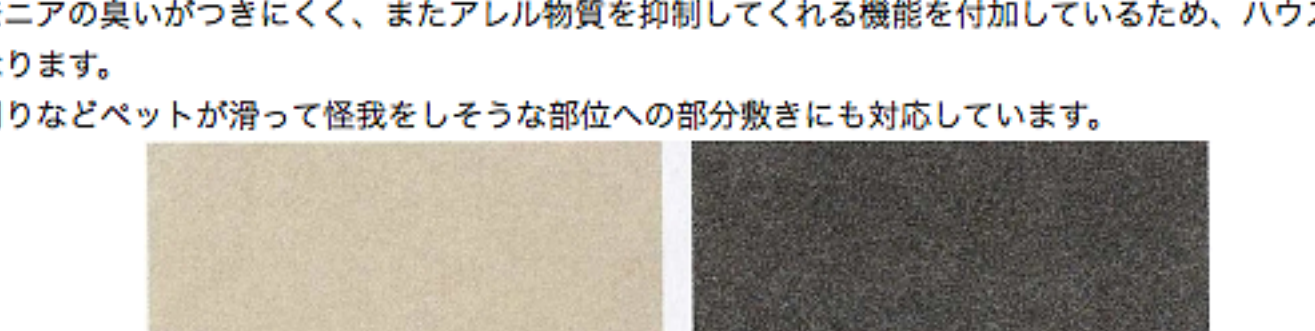
- 玄関
狭くて暗い玄関が一つ。ペット用のグッズも溢れて、臭いも気になってきています。ドアはペットが
びつくりしたキズで壊れた大きな黒ずみ…。
【ご提案】
ペットが入り出す裏口を設置。玄関脇に脱洗い場を設けます。玄関内は汚れやキズが付きにく
い、ドアと床素材を選び、もちろんリードフックも設置します。
人間用玄関はドアを取り替え、汚れた床は塗装をしない。換気システムを整えて空気がこもらな
いようにリフォームするのはいかがでしょうか？



玄関の収納スペースを充実させることで、リード・おもちゃなどのペットグッズ、人の靴などを入れて整理する
ことができます。さらに手すりやベンチを設置すれば、高齢者にも優しい玄関となります。

●土間・リビング

庭で遊んでいた犬が、そのままリビングにかけあがってくるので、部屋の中はドロだらけ。でも自由
にあそびさせてあげたい。
【ご提案】
まずリビングの床や壁は汚れやキズが付きにくい素材に張り替えます。段差の多い部屋はバリア
フリーで掃除しやすい空間にリフォーム。また、庭とリビングの間に土足スペースの設置が効果
的。庭のドロも土間スペースでかなり取り去ることができ、雨の日の散歩帰りにもこのスペースがと
ても便利です。



広いスペースがあれば、ベンチを置いて、犬仲間のご近所さんとの談話スペースにもなります。

リビングの床は耐傷・耐熱・耐水性にも優れた床材に張り替え。ダイニングの一角にペットスペースを、壁面には
収納を兼ねたネコ棚を設置。

アンモニア消臭&アレル物質抑制機能を兼ね備。
水洗いが可能で張り替えや敷き方も自由自在な多目的カーペット。

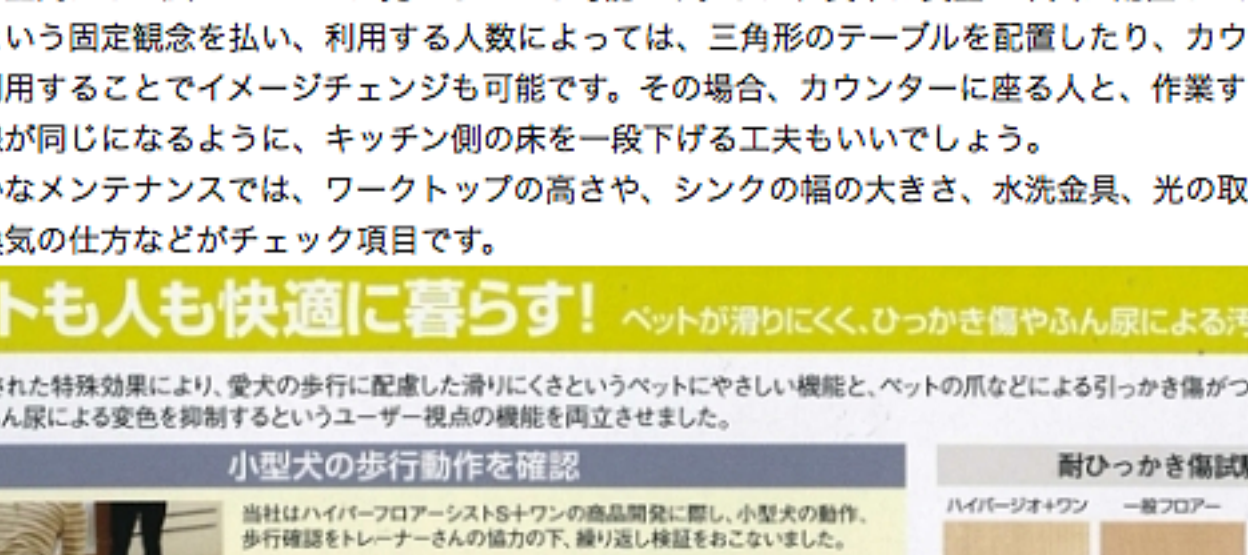
- ポリエチレン樹脂層によって、おしっこが下(既存床材)に漏れにくくなります。
■おしっこなどで汚れても、1枚単位で水洗い・張り替えも可能で自由自在です。
■アンモニアの臭いにつきにくく、またアレル物質を抑制してくれる機能を付加しているため、ハウスダスト対
策にもなります。
■階段周りなどペットが滑って怪我をしそうな部位への部分敷きにも対応しています。

Table listing carpet products: ベージュ YB40-02 ¥7,000/㎡ (4枚・0.64㎡) and チャコールグレー YB40-01 ¥7,000/㎡ (4枚・0.64㎡). Includes a section for '専用施工部材' with '目地テープ YB9904 ¥1,800/㎡'.

Section for 'ワンパークマット 仕様' with a table of specifications including size (6.5mm厚), weight (約1.0kg/㎡), and materials (ポリエチレン樹脂, アクリル樹脂). Includes a diagram of the mat's cross-section.

●バスルーム

ペットのシャンプーをするようになって、汚れが詰まってきたのか水流れが悪くなってしましまし
た。脱衣場の床は腐って剥がれてしまっています。
【ご提案】
抜け毛キャッチャーの設置はもちろん、大型犬を洗う場合は浴室の蓋を頭元にして、その上で洗え
るようすて便利。シャンプーホースは長めに、手元でスイッチをON、OFFできるのもだと便利。
床もすべりにくい素材に張り替えがお薦めです。

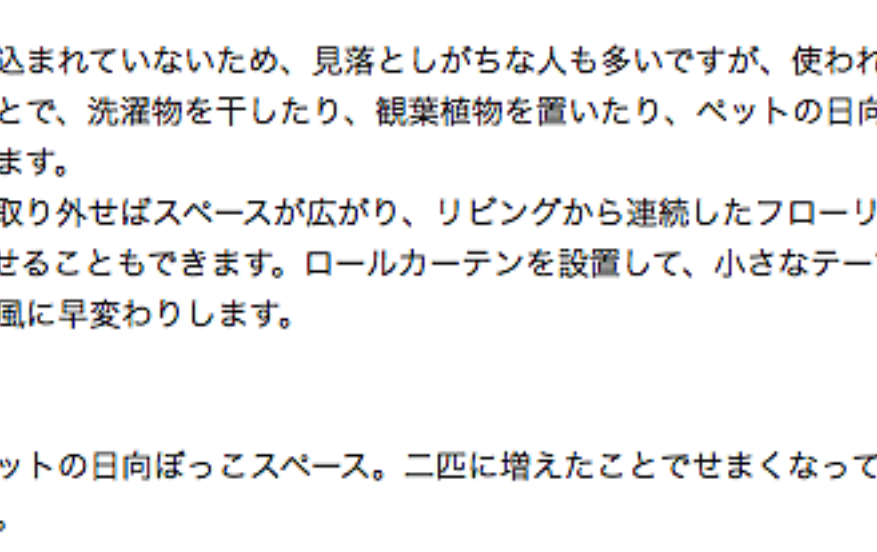


脱衣場も防臭、防汚、防キズの床に張り替えて、寝室近くにバスルームを設置し、別にゲスト用を造る。
二階部分に造る場合はユニットバスや洗い場付きの浴槽などを選ぶと、それ自体が防水構造に
なっているのでお薦めです。

●地下室

今まで、収納スペースにしていた地下室。暗くて湿っぽい空間なのであまり利用しなくなってい
ます。有効利用したいのですが…。
【ご提案】
地下室は遮音性が高いので、ペットの遊び場や音楽室にしてもGOOD。熱損失が少ないのも特徴
でワインセラーなど貯蔵庫として利用するのも効果的です。狭い土地の人が地下を有効に利用する
場合もお薦めです。

また地盤によっては地下水位があるので、防水の対応はしっかりと。また防水と合わせて結露を防
ぐ断熱スペースでも静かな落ち着いた書斎になったり、収納システムを整え納戸として利用するの
にも最適です。今まで見過ごしてきた空間を有効利用。これぞメンテナンスから発展したリフォー
ムです。



ペットの手の届かない高いところに収納棚を設置しペットフードを置くなどすれば、イタズラ防止になり、お節
度もスッキリします。

●キッチン

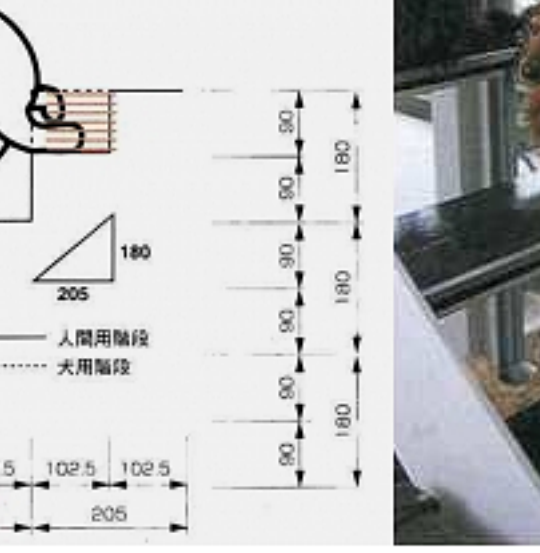
狭く、換気が悪いために壁に汚れが付着。壁も剥がれている部分もあるので、生活感のあるキッ
チン空間にしたいのですが…。
【ご提案】
壁や床は防汚、防キズにすれば掃除も簡単、ペットとの共生生活も快適です。狭いキッチン、ア
ソビだけでキッチンの役目を果たそうと固執するのではなく、ダイニングやリビングに続くバリア
フリー空間にして広いスペースを与え、病気の心配も減ります。また、食卓は食堂の中央に配置して四角
囲むという固定観念を払い、利用する人数によっては、三角形のテーブルを設置したり、カウンタ
ーを利用することでイメージチェンジも可能です。その場合、カウンターに座る人と、作業する人
の視線が同じになるように、キッチン側の床を一段下げる工夫もいでしょう。

細かなメンテナンスでは、ワークトップの高さや、シンクの幅の大きさ、水洗金具、光の取り入れ
方、換気の仕方などがチェック項目です。

Section titled 'ペットも人も快適に暮らす!' with sub-sections for '小型犬の歩行動作を確認' and '耐ひっつき傷試験'. Includes photos of dogs and diagrams of paw prints.

●トイレ

狭くて暗いトイレ。お排泄しにくい広い空間にしたいのですが…。さらにペットを飼うこと
にしたので、トイレでの排泄をしっかりとってほしい。
【ご提案】
人間用トイレの脇にもペット用スペースを設置。防キズ、防汚、防臭の壁と壁への張り替えは必須です。
これによって耐久性もアップします。換気システムも防臭、防汚、清潔でトイレというよりレストル
ームに生まれ変わります。



人とペットのトイレスペースを共有した例。

●サンスペース

ベランダの隅には汚れが黒くこびりついて、せつ々家の中で日当たりが一番いいのに、あまり
利用していません。何かいい方法はありませんか？
【ご提案】
開取りの中に組み込まれていないため、見落としがちなのですが、使われていないバルコニー
などに設置することで、洗濯物を干したり、観葉植物を置いたり、ペットの日向ぼっこ空間になる
効果的に利用できます。

入口のガラス窓を取り外せばスペースが広がり、リビングを設置した小さなテーリングの空間として、欧
風のおしゃれな邸宅風に早変わりします。

●ウッドデッキ

小さいな縁側がペットの日向ぼっこスペース。二匹に増えたことでせまくなってしまいました。広
くしたいのですが…。
【ご提案】
ならば、リビングから続くウッドデッキを設置してみてもいいでしょうか。日本では、庭に面して
あるのは雨戸が日や風を遮る。縁側が日向ぼっこスペースだったので、その縁側を、もっ
と屋外に近づけてありの元に出たのが、ウッドデッキといえるのです。ここに小さなテーブルと椅子
をおけば、編み物をする空間だったり、親しいお客様を迎えるスペースにも最適です。



●寝室

ペットが入らない唯一の部屋は寝室です。でも道路側に面しているのが嫌が多く、なかなかゆっ
くり休むことができません。いい方法はないでしょうか。
【ご提案】
眠りのスペースに一番快適なのは「静けさ」です。人間も動物も静かな場所でないといくつり眠れま
せん。つまりガラス窓が最も騒音がはいりやすく、排気口や暖房機の給排気の間も我慢できない騒
音になってしまいます。かといって、窓をなくしてしまえば、せっかく朝のすがすがしい太陽の
光で目覚めたくてもできません。そこで、音の侵入を防ぐ「二重サッシ」に取り替えてみてはいいか
でしょうか。二重にした内側部分の窓を木製サッシにすれば、見た目も美しく仕上がります。



●子供部屋

二人の子供たちの個室を造りたいのですが、家が狭くて困っています。いい方法はないでしょ
うか。
【ご提案】
子供にとって眠りは成長のカギです。安らげる自分の空間を与えてあげることが大事です。二階部
分に子供部屋を設けるなら、天窓から光を取り入れる方法もあります。また、二階部分に収納スペース
を造れば有効利用できます。その他、壁面収納やベッド下の引き出しなど、子供部屋には収納ス
ペースをいかに作るかがポイントです。



●屋上庭園

屋根の上のスペースは、ほとんど有効に活用されていないことが多いです。日照度といい、眺望
といい申し分なく、地上の庭より有効に広い面積が取得、ペットを遊ばせておくスペースとしても
有効に利用できます。風当たりを防ぎ、下から見えないように目隠しを設置すれば屋上に遊ばせたい
ようになります。屋上の壁を比較的高く設け、ガラス窓を付ければ屋上というより特別部屋ができた
ようになります。そして、壁を塗り替えてメンテナンスを考えていましたら、思い切って屋上部屋のリフォー
ムにチャレンジしてみてもいいでしょうか。

理想的なペット共生階段

ミニテラス・ダックスフントのような足の短い場合、後ろ足を引きつけて、前脚で伸びる回転のリス
ムが最もスムーズいのは、人間のサイズの階段。こうすれば、コゴロフは、一気に上まで上
って、得意顔で主人を見るくらいになる。



ペットは人に幸せを運ぶ! -深まる人間とペットの関係-

人間と犬の関わりは長く深いもので、日本狩猟文化では、今から三千年前の岩に描かれた絵が発
見され、そこには人間は杖を杖きりしてイノシシを狩りしている様子が描かれています。またエジプト
では、紀元前千二百年頃の人間の化石が発見されましたが、その脇には犬の骨が丁寧に置かれてい
たといえます。人の手が犬の体の上にきざりと置かれていたことから、この犬が「コンパニオンアニ
マル」(伴侶動物)であったことが想像されます。

それを元から犬は人間とともに暮らした。あるときは生活のパートナー、あるときはココロの安ら
ぎを与えてくれる癒しの対象とも存在していたのです。
今から約30年前のアメリカ、ヨロロバで、「人と動物の絆/ヒューマンアニマルボンド」という
理念が誕生しました。これは、「人間は動物と暮らしていた方が人間性を失わず、人間としての感性
を事前にも醸成することができる」という考え方で、人の健康と福祉、そして教育に、身近な動物が
とても大切な役割を担っていることになりました。

日本でも児童教育や動物教育、「社会活動」に人と動物の相互関係「ヒューマン/アニマルボンド」
を活かしていくことと、「日本ヒューマン/アニマルボンド学会」が設立されました。

※日本ヒューマンアニマルボンド学会 (J-HABS) は、地球環境の保全 (Nature) を加え、法人名を2010
年より日本ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド・ソサエティ (J-HANBS) に変更しています。

日本ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド・ソサエティ

ペットのしつけ

こうした人間との共生が進む中、重要視されるのがペットのしつけです。犬がかわいいからといって、
好き放題やらせておくのは犬のためとはいえません。人間の暮らしの中に犬を招き入れるのなら、犬
が人の社会の中で過ごしやすいようにしてあげることが犬のためです。そのための「しつけ」は犬を押し
つけるのではなく、「ペットがより快適に人の社会で暮らしていくための技術」なのです。

■ペットのリーダーになる！
犬はもともと危険から身を守るために群れで暮らしてきた動物です。犬の群れには必ず、群れを守り
統率するリーダーが存在します。人と暮らしている場合は、そのリーダーが私達人間というわけ
です。だから犬に食べ物を与え、病気を守ってあげること、ペットは飼い主をリーダーとして認
めていようになります。つまり飼い主はペットにとって尊敬されるというより特別存在でなければ
なりません。そしてそこから初めて人間とペットがリーダーとして存在できるようになります。

■見本は人間の赤ちゃん
考えてみてください。人間の赤ちゃんも、最初は目に入る物や動く物すべてに興味を示して、触りた
がったり口で、口に入れてきたりします。すると親は赤ちゃんの手の届く範囲から危険物を取り除
きます。トイレの練習も、はじめは親が子供をオールの上に座らせて「シー、シー」とうながし、
用をたしたら誉めます。この繰り返しが子供はウンチやおしっこをしたいと感じたら親に知らせ、
やがて自分で便器に座ることができるようになるわけです。犬も教える手間はこれと似ているので
す。



しつけのポイント

- ・指示は手の動きと合わせて犬が理解しやすいように行いましょう。
・しつけには犬との信頼関係が大切。飼い主の愛情が犬にとっての最大の魅力であることを認識しまし
ょう。
・なるべく犬のために時間を割いてふれあい、散歩に連れ出しましょう。
・犬との信頼関係は食事やおやつを与えるだけでなく、犬の体にじゅうぶん触れて、「スキンシップをとるこ
とが大切」です。
・犬が指示どりでできた必ず誉めてあげましょう。
・最初は家の中や庭などで行い、少しずつ人通りのある公園などで行うなど、いろんな環境に犬を慣らすよ
うにしてい
きましょう。
・しつけは、犬が喜んで飼い主の指示に従うようにすることを考えて行います。罰におびえて言うことをき
かせるので
はなく、十分に誉めて行うようにしましょう。
・家庭でのしつけは、生後3週間から3ヶ月間始めるのがベターです。幼年期に「人間には服従するもの」
と教えるこ
とで、犬の一生を左右するのです。
・成犬になってもしつけは可能です。まずはコミュニケーションをとることからはじめましょう。
・人にふれられることの気持ちよさを教えましょう。



しつけの成功は犬の顔に表れる

飼い主に唸ったり吠えたりする犬は、表情も厳しいですが、しつけをすることで飼い主に頼れるリー
ダーと認めると、服従性や協調性が豊かになり、とても穏やかな顔つきになります。これは飼い主を
信頼して気持ちよく安定して素直になれる証拠です。
また、しぐさでは、ヒビがベタッと後ろに倒れて、丸い顔つきになってくるのが特徴です。犬がリ
ラックスして暮らすには、犬が自然に飼い主に従いたくなるような状況を作り出すことが大切ですから、
体罰や叱られる恐怖で無理やり従わせるのではなく、心から飼い主に慕い、言うことをきくよう
になるように心がけましょう。

